

## 脂質異常症と冠動脈疾患

寺内 公一

## Summary

閉経後女性の最大の死因である冠動脈疾患予防のためには、何よりも血清脂質の適切な管理が重要である。国際的には、女性において血清中の高比重リポ蛋白コレステロール(HDL-C)と総トリグリセライド(中性脂肪, TG)が、総コレステロール(TC)や低比重リポ蛋白コレステロール(LDL-C)とは独立の、そしてTCやLDL-Cよりも優れた心血管疾患予測因子であることが知られている。冠動脈疾患リスク因子のなかで閉経後のエストロゲン低下と最も密接に関連するのは血清LDL-C高値であるが、一方で日本人女性の冠動脈疾患発症に対する寄与率は年齢・喫煙・糖尿病が高い。

## Key words

低高比重リポ蛋白コレステロール(HDL-C)血症  
高トリグリセライド(TG)血症  
高低比重リポ蛋白コレステロール(LDL-C)血症  
喫煙  
糖尿病

Masakazu Terauchi

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科  
茨城県地域産科婦人科学講座(寄附講座)教授

血中脂質・  
リポ蛋白プロファイルの性差

閉経前女性は男性よりも動脈硬化疾患リスクの低い血中脂質・リポ蛋白プロファイルを示す(表1)<sup>1)</sup>。具体的には、女性は男性に比べて高比重リポ蛋白コレステロール(high density lipoprotein cholesterol; HDL-C)が高く、低比重リポ蛋白コレステロール(low density lipoprotein cholesterol; LDL-C)・超低比重リポ蛋白コレステロール(very low density lipoprotein cholesterol; VLDL-C)・総トリグリセライド(中性脂肪, triglyceride; TG)・VLDLトリグリセライド(VLDL triglyceride; VLDL-TG)が低い。さらに女性においては、VLDL粒子の濃度が低く平均粒子径が小さい、LDL粒子の濃度は低い平均粒子径が大きいなどの特徴がある。HDL粒子については濃度に性差はないが、平均粒子径は女性のほうが大きい。

国際的には、女性において血清中のHDL-CとTGは、総コレステロール(total cholesterol: TC)やLDL-Cとは独立の、そしてTCやLDL-Cよりも優れた心血管疾患予測因子であることが知られている。HDL-C低値かつTG高値が冠動脈疾患の重要な予測因子であることを最初に見出したのは、米国のフラミンガム研究(Framingham study)<sup>2)</sup>である。CastelliはHDL-C 1.03mmol/L(≈40mg/dL)以下かつTG 1.7mmol/L(≈150mg/dL)以上の男女において冠動脈疾患のリスクが倍増することを見出したが、その影響は女性にお